

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2019年7・8月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第606号

職場の同僚から「宗教は内
にあたたかく、外には厳しい」
と呟かれた。同僚が「キリス
ト教は」と始めなかったのは、
わたしへの配慮だったのかも
しれない。

アカデミー運動は、戦後
キリスト教の立場から社会の
多様な問題の解決に資するこ
とを目指してドイツとスイス
で始まった。背景にはヒト
ラーの独裁を阻止できず、同
調性の高い社会を是とした教
会への反省があった。だから、
この運動は異なる世界観と価
値観を有する人びとを視界か
ら外さないように細心の注意
を払いつづけた。日本クリス
チャン・アカデミーも「価値
の多様性」と「正義、平和、
いのち」が尊ばれる社会の実
現を訴えてきた。

30年も昔、立ち寄った西下
イツ(当時)南部ミュンヘン
のアルテ・ピナコテークでA・
デューラーの「1500年の
自画像」に邂逅したときの衝
撃は今も忘れられない。近代
自画像の嚆矢とされるこの絵
のことは知ったつもりではな
かった。画枠におさまった28
歳の画家は、まるでイエス・
キリストのような風貌の男

だった。射抜くような目でこ
ちらを見返して来る。その視
線に耐えかねて移動しようと
すれば、自己への責任を放棄
した敗北感に押し潰されそう
になった。見ている者が見ら
れている。名状しがたい主客
の逆転は、画家自身のもので
もあった。かれもまた自己を
探求しながら、キリストにそ
の内奥深くを見つめられて自

キリスト教の自画像



財団代表理事

中村 信博

画像を完成したに違いない。
デューラーの視線を借りて
わたしもまたイエスに見つめ
られていたのかもしれない。
身動きができなかったのは、
自己との対峙から逃れられな
かったからだ。

随分と以前、姜尚中氏はN
HKの番組で「(デューラー
の視線は)神の目だ」と語ら
れたことがあった(新日曜美

A・マヌティウスは書物を携
行可能なサイズに改良したこ
とで、宗教の言説は教会の権
威を離れ、人びとに内在する
ものとなった。その内在を信
仰と呼ぶならば、「信仰のみ」
と「聖書のみ」という宗教改
革のふたつの精神は連続のも
のであったと了解される。こ
のとき、キリスト教は世俗世
界の技術革新とともにその自
画像を更新したとも言えるだ
ろう。

青年画家の境地はおおよそ四
半世紀後にヨハネ、ペトロ、

マルコ、パウロを描いた「四
人の使徒」(同美術館蔵)に
圧倒的な迫力をもって結実し
た。かれが描いた使徒たちは、
しばしば人間気質の四類型を
象徴したものだとも指摘され
てきた。一枚岩ではないその
多様で異質な群像こそが、老
境の画家が描いたキリスト教
の自画像だったのかもしれない。
若い日、キリスト像に固
有の自己を仮託したデュー
ラーは、晩年になって、固有
の価値を超えた使徒たちの複
数性に重ねてキリスト教の自
画像を描いたので。

社会の変化や異なる価値観
から目をそらすことはできな
い。医療やAI、エネルギー
などの最新技術はキリスト教
から遠い場所に蓄積されてい
るわけではない。異なる世界
観を有する人びとはわれわれ
の隣人として暮らしている。

いま、アカデミーの運動も
また異なる価値を生きる人び
とから学びながら、他者の視
線を自らに内在化させて、キ
リスト教の自画像を描くもの
でありたいと願っている。救
い主もまた、神であることに
固執されずに、われわれの罪
のなかに受肉された方なのだ
から。(同志社女子大学教授)

関東活動センター

●2019年度研究会

さらに豊かな礼拝のために

「ことばを届けるトレーニング」(全10回)

講師…日本キリスト教団 友野 富美子さん
祥光教会 担任牧師
2019年5月〜2020年3月 第3火曜

ウォーミングアップ

この講座では、声を発する前に時間をかけてウォーミングアップを行います。まず、頭や顔の頬やこめかみ、口元などをそっと撫でて顔の筋肉を柔らかくします。次には、腰を中心に身体を折、竿に干されている洗濯物になったように風に吹かれて、ぶらぶらんと身体を揺らします。地



球の重力に逆らわず揺れていくと頬の贅肉がタプタプと下に引かれます。足もほぐします。足の指の間に手の指を入れて指先から足首まで回します。始めの頃は足の指の間に手の指を入れようとすると痛くつりそうになりました。足がどれだけ靴の中で窮屈に縮こまって、私たちの身体を支えてくれているかがわかります。最後は顔を大きくしたり、小さくしたりします。顔は伸び縮みしませんが、イメージです。大きくする時は、目も最大限に見開き、大口を開け、鼻も膨らませます。小さくは顔の造作を全て鼻に集中させるようにします。これはいわゆる「ヘン顔」です。真面目なクリスチャンは大人になつてから人前でもご自宅でも一人の時さえ、ヘン顔することはないでしょう。この最中に、

プツと吹き出した方がいました。他の人の顔見たからではなく、自分がどんなに変な顔になっているか想像しただけで、可笑しくなるのです。こうして、身体も気持ちもほぐします。

声のキャッチボール

心と身体をほぐしたら、声のキャッチボールです。声のボールの大きさがバスケットボールか野球か、先生から指示があり、ボールが手にあることを想像し、「はい」と言つて相手に投げます。受け手は「どうも」と受け取ります。遠慮して力が入らずに「はい」と投げれば相手まで届かず途中で落ちます。気負いすぎても相手を通り越してしまいません。鋭い「はいっ！」の時はしっかりと「どうもー」、山なりにゆつくり「はーい」と来れば、「どおもー」と柔らかく受け取ります。これを続けていくと、ボールの大きさ、スピードが見えてきます。相手に届くようにボールを投げる、落とさず受ける。これにはお互いの「思いやり」が必要だと先生はおっしゃいます。

いよいよ聖書を読む

今期のテキストは説教(使

徒言行録2章)と旧約(エゼキエル書37章)を学んでいきます。

声を出して読む前にアナライズをします。①何が書かれているか、②どこが大切か、③どこで区切る(息継ぎをする)と聞いている人に意味が伝わるか④自分にとっては何の言葉が言いにいくか、等を印をつけていきます。そしていよいよ、読んでいきます。読み終わったら、まず自分で読んでみてどう思ったかを述べます。次に聞いた者たちが良かった点、改善したら良いと思う点、また、聞いて新しい気づきを述べ合います。最後に先生からのアドバイスがあります。受講生は皆、人生のかなりのベテランですから、自分のスタイルというのが身につけてしまっています。ウォーミングアップで気持ちも柔らかくしているのに、先生の指摘やみなさんの意見がすんなり心に入つて来て、それぞれに次の回にはステップアップされているのは素晴らしいと思います。

言葉が届けるトレーニングは受けとるトレーニングでもある

報告:高橋真軌(信濃町教会・信徒)

使徒言行録2章のペトロの説教を学んだ時にとても興味深い経験をしました。教会で聖書を1節ずつ輪読するということはよく行いますが、特に何節で区切るか決めないでいきなり二人で交代で読むようにとのこと。初めは戸惑ったものの、相手の方が区切りに向かって声を納めていく息づかいが分かってきて、こちらも読み始めるための準備をし、また、こちらが読んでいた時には、相手の方が読む準備をしている息づかいが分かり、区切りました。読後の感想で驚いたことに、相手の方も同じように感じてスムーズに交読できたということです。

礼拝は言葉が届け、受けてさらに豊かになっていくのだとつくづく感じました。時間をかけてのウォーミングアップで身体と心をほぐし、声のキャッチボールで受ける時の「どうも」が大切。まるで童心に返つたような楽しい講座の一つ一つのパートが「さらに豊かな礼拝のため」の一点に向かっていることがよく分かります。

関西セミナーハウス活動センター

●2019年度 修学院フォーラム「社会」第1回
〈平和を考える〉

「ボンヘッファーの平和倫理」

講師 四国学院大学名誉教授 山崎 和明さん
2019年4月20日(土)



講師はボンヘッファー研究の第一人者。今春からは関西活動センター運営委員長の責任を負ってくださっている。若くしてドイツ・ルター派教会の指導的牧師として頭角を現したボンヘッファーは反ナチ・ドイツ教会闘争を指導したが、それはナチスに迎合した多くのキリスト者から孤立する運動ともなった。さらに、ヒトラー暗殺計画に連座し処刑されたことがキリスト教倫理に投じた衝撃はいまも消えることはない。

講師はまずボンヘッファー

をとり巻く人々を具体的なエピソードをまじえて丹念に紹介し、時代と人となりや浮き彫りにされた。それは、かれの「平和倫理」の必然性と状況とを共感的に理解するため配慮ある道案内になった。後半では、ボンヘッファーの大胆な行動そのものよりも、その背景にあった「成人した世界とキリスト教」に焦点をあてて考察された。成熟し、世俗化した時代を「成人世界」と呼ぶかれの神学は、いわば次の時代のキリスト教と教会のあるべき姿を思索した結果であった。獄中にあつて「神の前で、神と共に、神なしに生きる」と紡いだ信仰は、ナチス崩壊のわずか三週間前に処刑された神学者の到達点にとどまるものではない。成人したはずの今日の世界に生きる私たちにこそ問われている。

●2019年度「開発教育セミナー」第1回

「開発教育入門セミナー」

Think Globally Act Locally
「足もと」と「世界」をつなぐ

関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会
2019年6月23日(日)
会場 京都市国際交流協会
共催 (公財)京都市国際交流協会

毎年の初夏の恒例「開発教育入門セミナー」が6月23日(日)に実施された。約30名の参加者があり、会場ははなしい、学びあいの熱気で包まれた。

最初に、身近なできごとと国連「持続可能な開発目標(SDGs)」がどのようにつながっているのかを考え、意見交換する時間をもった。

続いて、日本に住むインドシナ難民の少年の不登校をきっかけに、周囲の人たちにインタビュしながら家族と地域、社会の課題を考える、という設定のシミュレーション教材「ピンくんは何がおきたのか?」を実施した。現在はさまざまな背景のもとに渡日する人々も多く、参加者からは子どもたちを支えるための学校でのリアルな悩みなど

が出された。午後は「あなたに贈りたくなるチョコレート」をテーマに、チョコレートの歴史、世界への広まり、カカオの生産国と消費国との関係や格差の広がり、企業やNGOなどによるフェアな関係への取り組みなどを多角的な視点で学んだ。

1日を通じて、持続可能

な社会を創っていくために、SDGsの17のゴールとの関係を意識しながら、私たちがどんな視点で取り組みを進めていくことができるかを考えることが軸となった。このセミナーが「足もと」と「世界」をつなぐきっかけとなればと思う。



賛助会費・寄付金報告(1)

2019年6月1日～6月30日 (順不同・敬称略)

◆関東活動センター

寄付金		
中尾 久		5,000
中井 博雅		10,000
神学生プログラム寄付金		
吉田 博		5,000
中井 博雅		10,000

◆関西セミナーハウス

寄付金		
真宗大谷派 京都教区推進員協議会 (京都教区丹波第三組推進員協議会)		5,000
秋元 幸雄		30,000
中村 信博		20,000
長谷川 義紘		10,000
武田薬品京都農園退職者親睦会		
えんじゅ会		10,000
奥田 正義		5,000
岡本 仁彦・泰子		10,000
井上 康三郎		10,000
株式会社中工務店		50,000

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**2019年度関東フォーラム 宗教対話 I**
「日本キリスト教史を読む」Ⅲ
(昭和篇全 7 回)

講師：戒能 信生さん (日本基督教団千代田教会牧師)

第 4 回「戦争責任告白を担った鈴木正久の生涯と信仰」

日時：9月12日(木)14:00~16:00

第 5 回「神の痛みの神学を提唱した北森嘉威の生涯」

日時：10月10日(木)14:00~16:00

会場：早稲田奉仕園セミナーハウス 101 号室

参加費：1 回 500 円

■**2019年度聖書を読む講座**
新しい聖書の学び「マルコ福音書をじっくりと読む」(第 2 期)(全 10 回)

講師：山口里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：⑤9月10日(火)、⑥10月8日(火) 18:30~20:00

会場：早稲田奉仕園スコットホー

東 西 南 北

任期満了に伴い、2019 年度当財団定時評議員会 (6 月 7 日) で、次の通り役員が選任され、それぞれ就任した。(任期 2 年)

- 代表理事 中村 信博
- 理事 石田 光男 戒能 信生
- 神田 健次 神保 正男
- 原 牧人
- 監事 黒岩 裕二 棟方 信彦

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 **日本クリスチャン・アカデミー**
代表理事 中村 信博

本部事務局
〒 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター
〒 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 1 F
TEL 03-3207-6198
E-mail: info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/
関西セミナーハウス活動センター
〒 606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail: info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail: office@academy-kansai.org

ル 222

参加費：1,200 円/学生 500 円

共 催：早稲田奉仕園

「上林順一郎牧師と一緒に聖書を読もう—この時代の中で、聖書からのメッセージを読み解く—」

第 1 期「イエスの教えと生きざま〜福音書から」

講師：上林 順一郎さん

日時：①9月25日(火)、②10月23日(火) 14:00~16:00

会場：早稲田奉仕園セミナーハウス 101 号室

参加費：1,000 円/学生 500 円

共 催：早稲田奉仕園

■**2019年度 研究会**

「さらに豊かな礼拝のために〜言葉をお届けするトレーニング」(全 10 回)

講師：友野 富美子さん (日本基督教団吉祥寺教会担任教師)

日時：④9月17日(火)、⑤10月15日(火) 18:00~20:00

会場：日本基督教団巣鴨ときわ教会
参加費：1 回 1,200 円

◆**関西セミナーハウス**

■**第 7 回雲母(きらら) 薪能**

「山姥」(協力 林能楽会)

日時：10月4日(金)17:00開演 (16:30開場)

観覧料：3,000 円 (自由席)

定 員：100 名 ※雨天時、室内蠟燭能

◆**関西セミナーハウス活動センター**
■**2019年度お茶のこころと宗教のこころ**

「聖書をいっしょに読みましょう」

座 長：榎本 栄次さん (日本基督教団牧師)

日時：⑤9月2日(月)、⑥10月7日(月) 13:30~16:30(全 8 回)

会場：関西セミナーハウス
参加費：1 回 1,500 円 学生 500 円 (抹茶含む)

■**2019年度修学院フォーラム「社会」**
＜平和を考える 3＞

第 3 回「日米地位協定と九条、そして自衛隊」

講師：伊崎崎 賢治さん (東京外国語大学大学院教授)

日時：8月31日(土)13:30~17:30

会場：関西セミナーハウス
参加費：2,300 円 学生 1,000 円 (コーヒー付)

■**2019年度修学院フォーラム「いのち」**
＜老いの日をいかに生き、支えるか 3＞

第 1 回「・ひとり暮らしでも自宅で最期の日まで暮らせますか?」

・「自宅で死ぬのは怖くないのですか?」

講師：岡山 容子さん (おかやま在宅クリニック院長、医学博士)

日時：9月21日(土)13:30~17:30

会場：関西セミナーハウス
参加費：2,300 円 学生 1,000 円 (コーヒー付)

■**2019 年度開発教育セミナー**

第 3 回「多様性が生きる社会～人権としての言語から考える～」

講師：木村 護郎クリストフさん (上智大学外国語学部ドイツ語学科教授)

日時：9月7日(土)16:00~8日(日)12:00

会場：関西セミナーハウス
参加費：10,500 円 (1 泊 2 食 込) 京都市宿泊税 200 円別

■**エキュメニカル・ネットワーク 第 3 回協議会 (共催プログラム)**

日時：8月20日(火)14:00~21日(水) 15:30

会場：関西セミナーハウス
会 費：15,000 円、学生 10,000 円 (宿泊費・食費・懇親会費・資料代他)

主 催：エキュメニカル・ネットワーク

賛助会費・寄付金報告(2)

2019年6月1日~6月30日 (順不同・敬称略)

◆**関西セミナーハウス 寄付金**

- 小久保 正 10,000
- 株式会社アイウィル 10,000
- 林 宗一郎 10,000
- 山田 晴信 10,000
- 津田 友一 5,000
- 中井 博雅 30,000
- 株式会社藤木工務店京都支店 10,000
- 森口 克洋 10,000
- 株式会社ビーテック 30,000
- 廣田 吉久 5,000
- 横野 朝彦 20,000
- 株式会社新経営サービス 30,000

◆**関西セミナーハウス活動センター 賛助会費**

- 早川 良彌 5,000
- 宮本 桂子 5,000

- 佐野 千枝子 10,000
- 喜多村 やよい 5,000
- 春名 康範 10,000
- 酒井 涼子 5,000
- 柳井 一郎 10,000
- 森 正幸 5,000
- 大谷 光真 5,000
- 長塩 滋子 3,000
- 新宗連 橋本 浩志 5,000
- 葛原 茂樹 5,000

- 寄付金
 - 山崎 和明 2,520
 - 日本基督教団西が丘教会 3,000
 - 早川 良彌 5,000
 - 宮本 桂子 5,000
 - 喜多村 やよい 5,000
 - 大野 三枝子 2,000
 - 藤田 敦子 5,000
- 以上、感謝をもってご報告申し上げます。